

『日本語教育』執筆要領

1. 使用言語

使用言語は日本語または英語とします。

2. 投稿原稿の構成

投稿原稿は、次の部分から構成されるものとします。この順序で書いてください。

- (1) 投稿カテゴリ
- (2) 論文タイトル
- (3) 要旨(和文論文の場合：400 文字以内／英文論文の場合：500 ワード以内。要旨末尾に括弧書きで文字数を記載のこと。)
- (4) キーワード(原稿中の主要語句を 1 語以上 5 語以内)
- (5) 本文(図表を含む)
- (6) 注(必要に応じて)
- (7) 参考文献・資料一覧

投稿原稿には、執筆者名、所属機関名、および執筆者が推測されるような内容(謝辞、科研費をはじめとする助成金の情報など)は書かないでください。「拙著」「筆者は XXX (1997) において…」等のような表現の使用も避けてください。詳しくは、「論文投稿 FAQ」の「引用について」を参考にしてください。

論文末の英語要旨(和文論文)および日本語要旨(英語論文)については、査読を経て、採用が決まったあとに提出してください(詳細は採用決定時にお知らせします)。

3. 投稿原稿の書式・分量

投稿の際の提出書類は、学会ホームページからダウンロードした書式を使用して作成してください。

- 投稿原稿は「A4 判横書き、40 字×39 行」で作成する。原稿は word で作成し、図表を含め、できるだけ仕上げり紙面に近い形で原稿を作成すること。
- 図表を含め、モノクロで作成する。
- 分量は「2.投稿原稿の構成」の(1)～(7)が次の分量に収まるようにする。
 - 研究論文・実践報告・調査報告
 - 和文の場合は 14 ページ以内、英文の場合 7,000 ワード以内
 - 研究ノート 和文の場合は 7 ページ以内、英文の場合は 3,500 ワード以内
- 『日本語教育』は B5 判のため、図表等は縮小率を十分考慮して作成すること。
- 本文(英数字含む)は明朝 10 ポイント(英文の場合、Times New Roman 10pt)、各章の見出しはゴシック 10 ポイント(太字にしない)(英文の場合、Times New Roman 10pt, bold font)とし、行間も統一する。要旨、注、参考文献・資料は日本語も英語も文字を 9.5 ポイントとし、それ以上小さくしたり、行間をつめたりしないこと。
- 句読点は、日本語は全角の「,」,「。」, 英語は半角の「,」,「.」で統一する(表題も含む)。
- 本文にはページ番号を記載する。
- 各ページの左余白に行番号を記載する(ソフト上で設定すれば自動的に記載される)。
- 注は、脚注ではなく後注にし、注の番号は(1), (2), (3)...とする。
- 図表の文字は、日本語も英語も基本的に 8 ポイントにする(強調などのため、これより大きいポイントの文字を部分的に使うことは可能)
- 図表の題字はゴシック 9 ポイント(英文の場合、Times New Roman 9pt)にする。太字にする必要はない。

- 表番号と表題は表の上，図番号と図題は図の下に記載する。

4. 引用

文献を引用する場合には，以下の基準に従ってください。

- 単著文献を引用する場合，日本語でも英語でも以下のように著者の姓と発行年を表記する。但し，括弧は，和文論文では全角を，英文論文では半角を用いることとする。

例) 和文論文に日本語文献を引用する場合：横山（2008）によれば・・・。

・・・である（横山，2008）。

英文論文に文献を引用する場合：Anderson (1983) found...

...as has been shown (Anderson, 1983)

翻訳書を引用する場合（原著出版年/翻訳出版年）のように提示する：

レイヴ&ウエンガー（1991/1993）は・・・。

- 共著文献を引用する場合，著者が2人の時には常に両方の著者名を表記する。
 - 例) 和文論文に日本語文献を引用する場合：佐藤・鈴木（2019）によれば・・・。
 - 和文論文に英語文献を引用する場合：Sato & Suzuki（2019）によれば・・・
 - 英語論文に文献を引用する場合：Sato and Suzuki (2019) found...
 著者が3人以上の時は，文献が初出の場合から筆頭著者のあとに「ほか」（英文の場合は et al.）をつける。
- 一つのカッコ内に複数の引用文献を併記する場合，日本語文献（筆頭著者の姓の五十音順），外国語文献（筆頭著者の姓のアルファベット順）の順に以下のように配列する。
 - 例) ～である（佐藤，2015；鈴木，1988；Anderson，1984；Sato & Suzuki，2019）。
- 同一著者，同一出版年の異なる文献を引用する場合は，本文中に登場する順に出版年のあとに a, b のようにアルファベット順に記号を入れる。
 - 例) 佐藤（2019a） 佐藤（2019b）
- 同一著者の単著と共著がある場合は，単著を先にする。
- 引用箇所の頁は以下のように記す。
 - 例)（鈴木，2009，p.35） （佐藤，2015，pp.47-49）

5. 参考文献・資料

参考文献とは，本文中で引用，言及されている先行研究をいいます。本文中で引用，言及したものはすべて記載してください。一般的に入手が難しい，未公開の卒業論文や修士論文，科学研究費補助金等による研究報告書などを引用することは，原則としておやめください。資料とは，分析の対象とした一次資料をいいます。これらは，参考文献とは別に記載してください。

参考文献と資料の書き方は，以下の基準に従ってください。

- 論文原稿の最後に，章番号をつけずに参考文献（英文の場合，References）という見出しをつける。資料を載せる場合は，参考文献の後に，資料（英文の場合，Supplemental materials）という見出しをつける。
- 参考文献は，日本語による文献（以下，日本語文献）と，外国語（英語，中国語など）による文献（以下，外国語文献）とを，それぞれまとめて，日本語文献，外国語文献，の順に記載する。
- 日本語文献は，第一著者の姓の五十音順に配列し，外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。各文献の冒頭には，括弧付きの通し番号をつける。
- 記載すべき情報
 1. 単行本<単著，共著>の場合：著者，発行年，書名，出版社名
※外国語文献では，書名はイタリック体にする。
 2. 単行本<分担執筆>の場合：分担執筆者，発行年，当該章の題名，編者，書名，章番号，出版社名，ページ

※外国語文献では、書名はイタリック体にする。

3. 学術論文の場合：著者，発行年，題名，雑誌名，巻または号，ページ
※外国語文献では，雑誌名および巻番号はイタリック体にし，号番号はイタリックにしない。
※「(公開されている) 博士論文」も同様に記載する。
4. 学会発表予稿集(論文集)の場合：著者，発行年，題名，予稿集名(論文集名)，ページ
5. 教科書の場合：著者，出版年，教科書名，出版社名
※英文の場合，書名はイタリック体にする。
6. インターネット情報の場合：当該情報が記載されている HP などのアドレス
※資料にアクセスした日付を括弧付きで記載する。

● 記載例

1. 単行本<単著，共著>の場合
横山紀子(2008)『非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究』ひつじ書房
レイヴ，ジーン・ウェンガー，エティエンヌ(1991)，佐伯胖(訳)(1993)『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』産業図書
Anderson, J. R. (1983). *The architecture of cognition*. Harvard University Press.
2. 単行本<分担執筆>の場合
松見法男(2002)「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子(編)『日本語教育のための心理学』第6章，新曜社，97-110。
MacWhinney, B. (1989). Competition and connectionism. In B. MacWhinney, & E. Bates (Eds.), *The crosslinguistic study of sentence processing* (pp. 422-457). Cambridge University Press.
3. 学術論文の場合
宇佐美洋・森篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち(2009)「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響—文脈の中での意味推測を妨げる要因とは—」『日本語教育』140，48-58。
Coxhead, A. (2000). A new academic word list. *TESOL Quarterly*, 34(2), 213-238.
小森由里(2005)『人称詞の研究—社会ネットワーク理論の観点から—和歌山県紀南地方の一親族の事例より—』〔博士論文〕国際基督教大学
Matsushita, T. (2012). *In what order should learners learn Japanese vocabulary? A corpus-based approach* [Doctoral dissertation, Victoria University of Wellington].
<<http://researcharchive.vuw.ac.nz/xmlui/handle/10063/4476>> (March 11, 2020)
4. 学会発表予稿集(論文集)の場合
迫田久美子・松見法男(2005)「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究(2)—音読練習との比較調査からわかること—」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』，241-242。
Naismith, B., Han, N., Juffs, A., Hill, B., & Zheng, D. (2018). Accurate measurement of lexical sophistication with reference to ESL learner data. In K. E. Boyer & M. Yudelson (Eds.), *Proceedings of the 11th International Conference on Educational Data Mining* (pp. 259-265). International Educational Data Mining Society.
5. 教科書の場合
日本花子・東京次郎・大阪美子(編)(2006)『上級者のための日本語(2)—読解編—』日本語教育書房
Nihon, H., Tokyo, J., & Osaka, Y. (Eds.), (2006). *Jokyusha no tameno Nihongo (2): Dokkaihen*. Nihongokyoiku Shobo.
6. インターネット情報の場合
日本語教育学会『日本語教育』投稿要領<<http://www.nkg.or.jp/kenkyusha/faq>> (2017)

年 6 月 2 日)

Tokoyoryo. *Nihongokyoiku*. <<http://www.nkg.or.jp/kenkyusha/faq>> (June 2, 2017)

7. 以上の 1~6 に登場した文献が参考文献であれば、下記のように配列して記載する。

- (1) 宇佐美洋・森篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち (2009) 「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響—文脈の中での意味推測を妨げる要因とは—」『日本語教育』140, 48-58.
- (2) 小森由里 (2005) 『人称詞の研究 社会ネットワーク理論の観点から—和歌山県紀南地方の一親族の事例より—』〔博士論文〕国際基督教大学
- (3) 迫田久美子・松見法男 (2005) 「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究 (2) —音読練習との比較調査からわかること—」『2005 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, 241-242.
- (4) 日本語教育学会『日本語教育』投稿要領<<http://www.nkg.or.jp/kenkyusha/faq>> (2017 年 6 月 2 日)
- (5) 日本花子・東京次郎・大阪美子 (編) (2006) 『上級者のための日本語(2)—読解編—』日本語教育書房
- (6) 松見法男 (2002) 「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子 (編) 『日本語教育のための心理学』6, 新曜社, 97-110.
- (7) 横山紀子 (2008) 『非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究』ひつじ書房
- (8) レイヴ, ジーン. ウェンガー, エティエンヌ (1991), 佐伯胖 (訳) (1993) 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』産業図書
- (9) Anderson, J. R. (1983). *The architecture of cognition*. Harvard University Press.
- (10) Coxhead, A. (2000). A new academic word list. *TESOL Quarterly*, 34(2), 213-238.
- (11) MacWhinney, B. (1989). Competition and connectionism. In B. MacWhinney, & E. Bates (Eds.), *The crosslinguistic study of sentence processing* (pp. 422-457). Cambridge University Press.
- (12) Matsushita, T. (2012). *In what order should learners learn Japanese vocabulary? A corpus-based approach* [Doctoral dissertation, Victoria University of Wellington]. <<http://researcharchive.vuw.ac.nz/xmlui/handle/10063/4476>> (March 11, 2020)
- (13) Naismith, B., Han, N., Juffs, A., Hill, B., & Zheng, D. (2018). Accurate measurement of lexical sophistication with reference to ESL learner data. In K. E. Boyer & M. Yudelson (Eds.), *Proceedings of the 11th International Conference on Educational Data Mining* (pp. 259-265). International Educational Data Mining Society.
- (14) Nihon, H., Tokyo, J., & Osaka., Y. (Eds.), (2006). *Jokyusha no tameno Nihongo (2): Dokkaihen*. Nihongokyoiku Shobo.
- (15) Tokoyoryo. *Nihongokyoiku*. <<http://www.nkg.or.jp/kenkyusha/faq>> (June 2, 2017)

投稿時には、本要領と合わせて「[論文投稿 FAQ](#)」も参照し、「ダウンロード用原稿書式」に則って論文を作成してください。本要領および FAQ で言及されていない点については、APA (アメリカ心理学会) 最新版 (2020 年 3 月現在, 第 7 版) に規定されている方式に準ずる方法を採用してください。

公益社団法人日本語教育学会学会誌委員会 (2020 年 7 月改訂)